

# 1. 登別市の3つのお財布（会計）



水道事業会計  
14億2,300万円  
対前年度比マイナス2.6%

水道事業は、一般の企業と同じように、独立採算で事業を運営しています。  
本年度は、平成23年度に比べ2.6%の減となりました。

国民健康保険  
65億240万円  
(プラス0.6%)

学校給食事業  
3億6,210万円  
(プラス2.8%)

公共下水道事業  
27億2,540万円  
(プラス14.9%)

簡易水道事業  
3,230万円  
(プラス24.7%)

**お財布の中身** ( ) は対前年度比  
公共下水道事業では、雨水管の取り替えをするため、対前年度比14.9%の増。介護保険では、高齢者の増加を背景に、対前年度比3.4%の増となりました。

介護保険  
33億7,630万円  
(プラス3.4%)

カルルス温泉  
スキー場事業  
1億1,580万円  
(プラス3.7%)

後期高齢者医療  
6億6,780万円  
(プラス3.7%)



## 自治体財政の ひとくちメモ

収入のうち、市税は、市民の皆さんから直接いただく税金で、年によって増えたり減ったりすることが少ない収入です。このため、安定的なやりくりを行っていく上では、収入に占める市税の割合が高いことが理想とされています。

しかし、当市では、市税の割合がほかの自治体に比べて低く、その割合を上げる努力をしなければなりません。

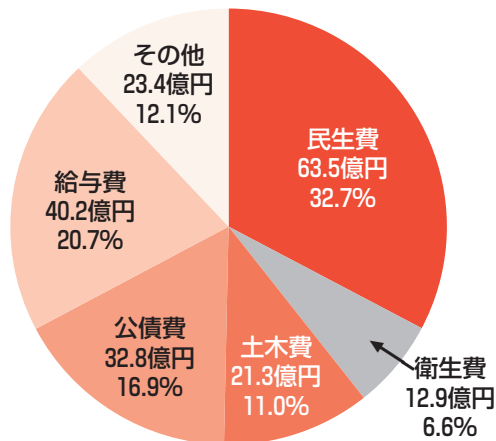
地方交付税は、全国どの自治体でも同じようなサービスを受けられるよう国から交付されるもので、市税と並び、市の収入の中心を成すものですが、国の懐具合や考え方で額が大きく減額します。

当市では、地方交付税の割合が、他の自治体に比べて高く、三位一体の改革で交付税が減額された時には、とても厳しいやりくりを強いられました。

また、支出のうち、公債費や給与費は必ず払わなければならないお金で、民生費などその他の経費の大部分も、法律などで支払いが義務付けられているものです。

これらの必ず払わなければならないお金は、歳出全体の90%以上を占めており、新しい事業になかなか取り組めない状況にあります。

## 歳出



### 用語解説

**民生費** 医療や福祉などに使うお金  
**衛生費** 市民の健康増進やごみ処理などに使うお金  
**土木費** 道路や公園、市営住宅などの建設や維持管理に使うお金  
**公債費** 借金の返済のためのお金  
**給与費** 給料や退職金を払うためのお金



## 歳出のポイント

**民生費** 子ども手当の減額などにより、平成23年度比 **3億5,992万円** の減

**衛生費** し尿処理施設の閉鎖事業の終了などにより、平成23年度比 **6,336万円** の減

**土木費** 市営住宅の建て替えや大規模改修などにより、平成23年度比 **2億9,278万円** の増

**公債費** 高止まりが続いており、本年度も依然 **30億円** を超える高水準

**給与費** 職員数は、ここ数年微減または横ばいで推移しているので、本年度も平成23年度とほぼ同額